

専任教員教育研究業績

平成29年 4月 1日

氏名	ふりがな	所属学科	職 位	性別
吉田 眞理	よしだ まり	保育学科	副学長・教授	女

担当科目名	学内委員会等
家庭支援論、児童家庭福祉、保育相談支援、地域と福祉、ゼミナール	カリキュラム委員会、入試委員会他

学 歴		学位
和暦(西暦)年 月	事 項	
昭和50(1975)年3月	早稲田大学 第一文学部 社会学専攻 卒業	文学学士 (社会学)
平成13(2003)年3月	大正大学 大学院 文学研究科 社会福祉専攻 修士課程修了	文学修士 (社会福祉学)
平成16(2006)年3月	大正大学 大学院 福祉・臨床心理学専攻 博士課程修了	博士 (人間学)

教 育 歴 ・ 職 歴		
名 称	期 間	教育内容又は業務内容
日本女子大学家政学部 通信教育課程	平成15年4月～平成18年3月	非常勤講師(児童福祉)
大正大学人間福祉学科	平成17年4月～平成18年3月	非常勤講師(市民活動論、社会福祉援助技術演習)
田園調布学園大学人間 福祉学部地域福祉学科	平成16年4月～平成17年3月	非常勤講師(社会福祉援助技術演習)

所 属 学 会 等		
名 称	活動期間	活動内容(役職等の活動を含む)
日本社会福祉学会	平成12年～現在	学会発表(平成14年)
日本ソーシャルワーク学会	平成12年～現在	学会誌発表(平成15年)
日本地域福祉学会	平成15年～現在	学会発表(平成17年18年19年20年22年23年)
日本保育学会	平成17年～現在	学会発表(平成17年 21年)
大正大学社会福祉学会	平成18年4月～現在	評議員
保育者養成教育学会	平成27年9月～現在	

社 会 活 動 等		
名 称	活動期間	活 動 内 容
地域療育センターあおば(横浜市)	平成19年4月～現在	運営委員長
かながわ第三者評価推進機構	平成26年4月～現在	委員
小田原市教育委員	平成26年10月～現在	委員
横浜市子ども子育て会議	平成27年10月～現在	委員

担 当 教 科 目 に 関 す る 資 格 ・ 免 許 等		
名 称	取得年月	取 得 機 関
保育士	平成3年8月	山梨県

研 究 実 績 に 関 す る 事 項				
代表的な著書、論文等の名称	単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概 要
(著書)	(著書)			
1. 「わが国におけるソーシャルワーク実践の展開」	共著	平成20年	川島書店	故人となった恩師(博士論文副査)の小松源助先生の追悼書。ご教授いただいた博士論文の研究成果の一部を掲載した。
2. 「生活事例からはじめる社会福祉」	単著	平成20年	青踏社	保育士養成課程の必修科目テキスト 生活者の視点から事例を通じて短大生をターゲット

				ットに社会福祉の考え方を丁寧に著した。
3 「児童の福祉を支える 家庭支援論」	単著	平成 22 年	萌文書林	保育士養成課程の必修科目テキスト 福祉の視点からジェンダーや住民参加、ひろば活動の実施方法についても著している。
4. 「生活事例からはじめる児童家庭福祉」	単著	平成 22 年	青踏社	保育士養成課程の必修科目テキスト 生活者の視点から事例を通じて短大生を主たる対象に、児童福祉の考え方と実際の取り組みを著した。
5. 「児童の福祉を支える 児童家庭福祉」	単著	平成 23 年	萌文書林	保育士養成課程の必修科目テキスト 基礎編と発展編にわけ、学生の学習状況に応じて活用しやすく編集した。
6. 「児童の福祉を支える 社会的養護内容」	編著	平成 22 年	萌文書林	保育士養成課程の必修科目テキスト 全体の編集を行った。「社会的養護」の理念を現場でどのように活用するか、事例を用いて著した。
7. 「児童の福祉を支える 社会的養護」	編著	平成 23 年	萌文書林	保育士養成課程の必修科目テキスト 全体の編集を行った。いのちの重みをどうとらえるか、児童の権利についてどう考えるか問いかけている。
8. 「生活事例からはじめる保育実習」	編著	平成 24 年	青踏社	保育士養成課程の必修科目テキスト 保育士養成における保育実習Ⅰ、Ⅱを中心として、教育実習や保育実習Ⅲにも役立つ基礎的な生活力を視野に入れた指導書である。
9. 「親育ち導入ガイド」	共著	平成 26 年	神奈川県	神奈川県次世代育成部「親育ち支援プログラム検討会」で調査を経て親支援について、他学の研究者や実践者と意見交換をして作成した地方公共団体担当者向けの親支援の手引書である。
10. 「保育者のためのキャリア形成論」	共著	平成 27 年	建帛社	保育を目指す学生に向けて、保育現場に必要な知識・技術・価値を伝え、保育現場にある保育者に自己研鑽を促す書である。
11. 「社会福祉の制度と法律」	単著	平成 27 年	青踏社	看護分野の学生に、福祉にかかわる制度や法律について事例を交えて解説した。福祉における人間観・社会観も伝えることを意図した。
12. 「保育入門テキスト」	編	平成 27 年	萌文書林	小田原短期大学保育学科教員が保育分野を目指す高校生などに向けて、保育の資格について解説し、保育者養成課程における学びの内容について一部紹介している。
13. 基本保育シリーズ 「家庭支援論」	共著	平成 28 年	中央法規	第 14 章「子育て支援における関係機関との連携」第 15 章「子育て支援サービスの課題」を執筆した。
14. 現場のエピソードに学ぶ 社会福祉	単著	平成 28 年	青踏社	保育試験を目指す方々に向けて、社会福祉に関する必要な知識・技術・価値を伝える書である。
現場のエピソードに学ぶ 児童家庭福祉	単著	平成 28 年	青踏社	保育試験を目指す方々に向けて、児童福祉に関する必要な知識・技術・価値を伝える書である。
(学術論文)				
1. 保育士養成システムのパラダイム転換Ⅲ」	共同研究	平成 20 年	全国保育士養成協議会	専門委員として保育士の専門性、養成のあり方に関する研究と調査を行った。
2. 指定保育士養成施設卒業生の卒後の動向及び業務の実態に関する調査	共同研究	平成 21 年	全国保育士養成協議会	専門委員として保育士養成施設出身者のアンケート調査及び分析を行った。
3. 「学生の自己尊重感を高める心理系グループセッションの試	共著 研究責	平成 22 年	本学紀要 41 号	自己尊重感が低い学生に対し、心理系グループセッションを行うことにより、人間関係上

行(中間報告) (査読あり)	任者			の課題発生、実習でのつまずき、退学などの予防に役立てようというものである。
4. 短期大学における今後の役割・機能に関する調査研究	共同執筆	平成 23 年	文科省先導的 大学改革推進 委託事業	本研究チームの保育士グループ研究員として、全国の保育所、短期大学への調査票を作成し、分析を行っている。
5. 子育て支援センターにおけるボランティア活動を通じた次世代育成	研究代表	平成 24 年	神奈川県	「かながわ子ども・子育て支援推進調査研究事業費補助金」を受けて小田原市マロニエ子育て支援センターをフィールドとして、中高生ボランティアについて研究を行った。
6. 「住民が運営する《地域子育てひろば》に関する研究[1]～ひろば運営の可能性と課題～」	単著	平成 25 年	本学紀要 43 号	小田原市主任児童委員が主宰する「ひろば」の調査を行ない参加型アクションリサーチの手法を用いて分析・研究した。
7. 「地域子育てひろばを活用した乳幼児家庭全戸支援(1)ー小田原モデルの研究と試行ー」	執筆者代表	平成 26 年	本学紀要 44 号	子育てひろばへの導入として開催する乳児向けの「赤ちゃんひろば」の小田原市における試行と本学独自プログラム OMP について詳述した。
(その他) 1. 高大連携「保育者養成導入講座」事業	実施責任者	平成 22 年ー 23 年	神奈川県	神奈川県政策部による『大学発・政策提案制度』の募集を受け、神奈川県と本学の共同事業として受託した。
2. 「子育て家庭の孤立予防のためのひろば全戸参加事業(赤ちゃんひろば事業)の開発」	研究代表	平成 27 年ー 28 年	神奈川県	平成 26 年度神奈川県政策部による『大学発・政策提案制度』に 2 度目の採択を受けた。
3. 中核的専門人材養成等の戦略的推進による潜在保育士の就職・再就職支援事業	研究メンバー	平成 26 年ー 27 年度	文部科学省	三幸学園が事業受託した潜在保育士対策の事業展開において、研修にかかわる分科会メンバーとして研究し、e ラーニング教材を作成した。
4. 神奈川県大学連携地方創生事業	代表	平成 27 年	神奈川県	平成 26 年度神奈川県県西センターによる『大学連携地方創生事業』の採択を受けた。
5. 保育分野における長期就労支援に向けたリーダー育成プログラム開発事業	第 1 分科会代表	平成 28 年度	文部科学省	三幸学園が事業受託した保育士の長期就労支援に関する研究において、研修にかかわる分科会 1 の代表として研究し、e ラーニング教材を作成し、報告書を執筆した。
その他 (表彰等)	表彰	平成 22 年 5 月		全国保育士養成協議会功労者表彰